

令和3年度

定期作況報告

〈令和3年5月20日現在〉

地方独立行政法人北海道立総合研究機構

農業研究本部 道南農業試験場

I 気象

根雪始は平年に比べ3日遅く、根雪終は5日早く、積雪期間は平年より9日短かった。

4月下旬：平年と比較して平均気温、最高気温は平年並、最低気温は1.7℃低かった。降水量は平年の38%、日照時間は同118%だった。

5月上旬：平年と比較して平均気温、最低気温は平年並、最高気温は1.1℃高かった。降水量は平年の51%、日照時間は同119%だった。

5月中旬：平年と比較して平均気温は1.6℃、最高気温は2.1℃、最低気温は1.4℃高かった。降水量は平年の161%、日照時間は同83%だった。

以上、平年に比べ平均気温は0.6℃、最高気温は1.1℃それぞれ高く、最低気温は平年並だった。降水量は平年の82%、日照時間は同106%だった。

表1-1 気象表

調査項目	4月下旬			5月上旬			5月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
平均気温(℃)	8.7	9.0	▲0.3	11.3	10.8	0.5	13.5	11.9	1.6	11.2	10.6	0.6
最高気温(℃)	14.7	14.6	0.1	17.1	16.0	1.1	19.2	17.1	2.1	17.0	15.9	1.1
最低気温(℃)	1.7	3.4	▲1.7	5.7	5.7	0.0	8.4	7.0	1.4	5.3	5.4	▲0.1
降水量(mm)	9.0	23.6	▲14.6	16.5	32.3	▲15.8	41.0	25.4	15.6	66.5	81.3	▲14.8
日照時間(hr)	75.1	63.7	11.4	69.8	58.5	11.3	53.5	64.5	▲11.0	198.4	186.7	11.7

注1) 観測値は北斗市のアメダスデータによる。平年値は前10か年の平均値である。

注2) 表中▲印は「低」または「少」を示す。

表1-2 季節調査

項目 年次	前年		本年							
	初霜 (年月日)	根雪始 (年月日)	根雪終 (年月日)	積雪期間 (日)	降雪終 (年月日)	耕鋤始 (年月日)	晩霜 (年月日)	初霜 (年月日)	無霜期間 (日)	降雪始 (年月日)
本年	R2.10.16	R2.12.14	R3.3.9	85		R3.4.8				
平年	10.21	12.11	3.14	94	4.14	4.9	4.30	10.21	173	11.11
比較	▲5	3	▲5	▲9		▲1				

注1) 耕鋤始は農試データ、それ以外は函館地方气象台（函館市美原）の観測値を使用した。

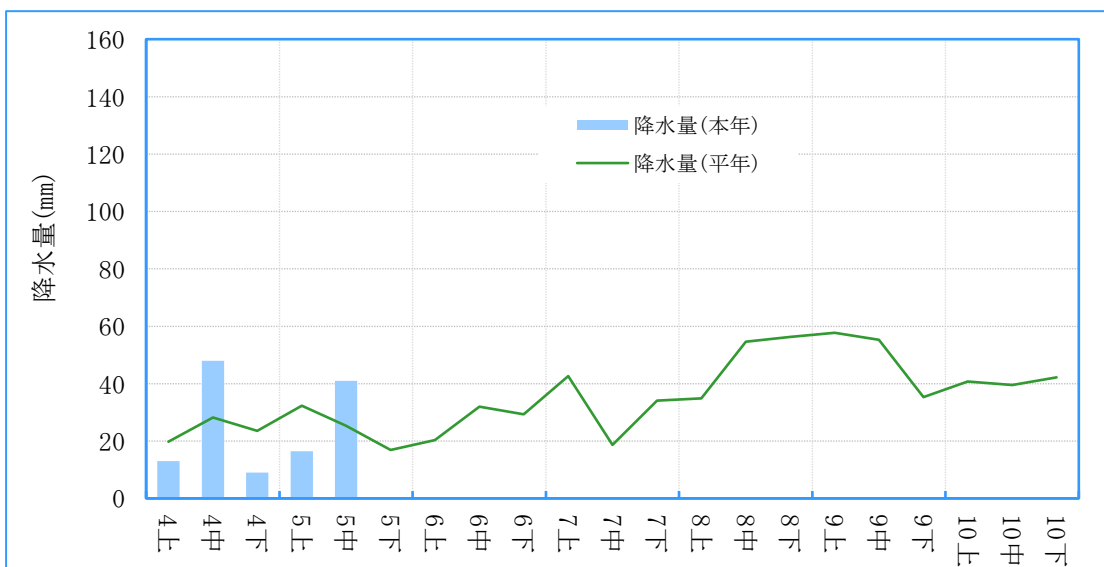
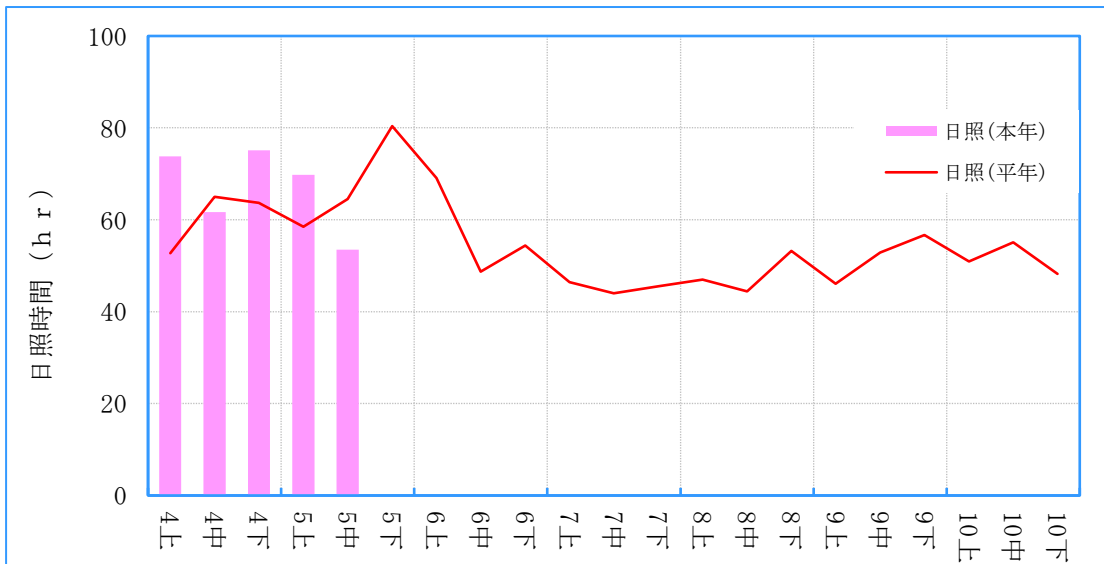
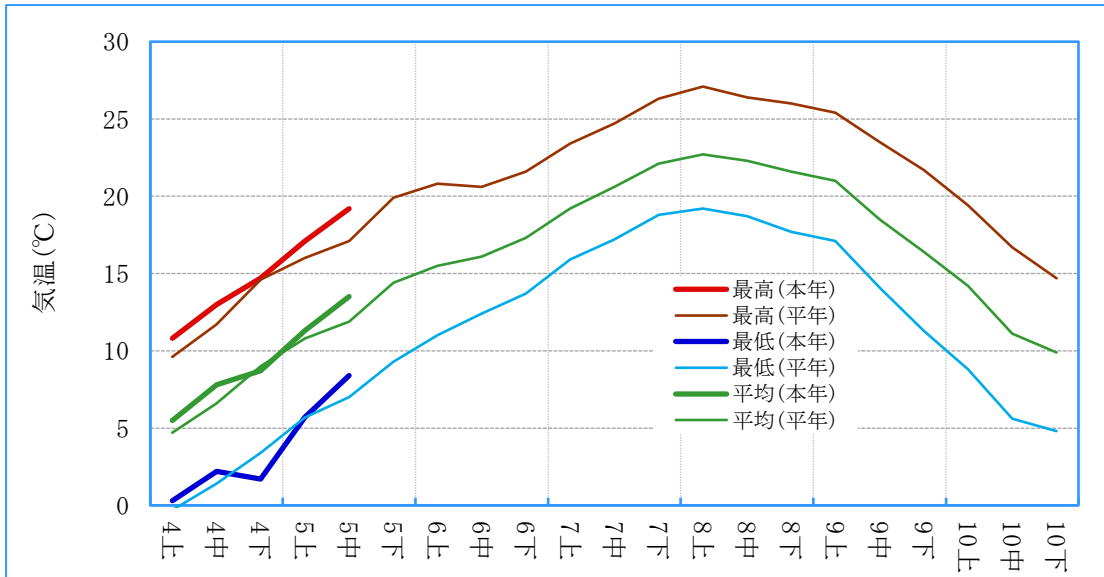
ただし、晩霜は函館地方气象台の観測値に基づく推定値(最低気温が1.3℃以下)とする。

注2) 平年値はてん蔵（前10か年）による。

注3) 表中▲は「早」を示す。

注4) 降雪終および晩霜の本年値は、5月20日現在においては未確定である。

気温、降水量及び日照時間の平年との比較(令和3年、北斗市)



II 作況（水稲）

5月20日：平年並

事由：播種は平年より1日遅い4月22日に行った。出芽は順調で出芽までの日数は平年より1日短く、出芽期は4月27日であった。育苗期間中、5月上旬は、気温が平年よりやや高く、やや多照に推移し、5月中旬はやや少照であったものの、高温に推移したことから、苗の生育は概ね順調であった。移植は平年並の5月20日に行った。移植時の苗の形質において、草丈、葉数、茎数、地上部乾物重はいずれも平年並であり、苗の充実度を表す地上部乾物重/草丈の値も平年並であった。

以上のことから、現在の作況は「平年並」である。

表2 水稻の生育

項目	品種名 /年次	ふっくりんこ			ななつぼし		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
生育期節	播種期 (月日)	4.22	4.21	1	4.22	4.21	1
	出芽期 (月日)	4.27	4.27	0	4.27	4.27	0
	移植期 (月日)	5.20	5.20	0	5.20	5.20	0
	幼穂形成期 (月日)		7.02			6.28	
	止葉期 (月日)		7.19			7.16	
	出穂期 (月日)		7.28			7.27	
	成熟期 (月日)		9.15			9.12	
	穂揃日数 (日)		6			6	
	登熟日数 (日)		49			47	
	生育日数 (日)		147			144	
移植時	草丈 (cm)	13.8	13.4	0.4	13.7	13.6	0.1
	葉数 (枚)	3.3	3.4	▲ 0.1	3.6	3.4	0.2
	茎数 (本/個体)	1.20	1.17	0.03	1.07	1.16	▲ 0.09
	地上部乾物重 (g/100本)	2.56	2.70	▲ 0.14	2.52	2.75	▲ 0.23
	地上部乾物重/草丈	0.19	0.20	▲ 0.01	0.18	0.20	▲ 0.02
本田生育	葉数 (枚)	6月20日	7.8		7.8		
		7月20日	10.6		10.6		
	止葉葉数		10.8		10.6		
	茎数 (本/m ²)	6月20日	521		475		
		7月20日	886		791		
		8月20日	727		691		
	草丈 (cm)	6月20日	32.4		33.5		
		7月20日	69.6		72		
		8月20日	90.5		91.1		
成熟期	稈長 (cm)		75.1		74.0		
	穂長 (cm)		15.9		16.0		
	穂数 (本/m ²)		712		678		
収量構成要素	一穂粒数 (粒)		45.1		49.2		
	m ² 当粒数 (×1000)		32.1		33.4		
	稔実歩合 (%)		93.2		93.4		
	m ² 当稔実粒数 (×1000)		29.9		31.2		
	同上平年比		100		100		
	登熟歩合 (%)		79.8		83.4		
	籾摺歩合 (%)		76.5		79.4		
	屑米歩合 (%)		7.0		4.1		
収量	精玄米千粒重 (g)		22.6		21.5		
	わら重 (kg/a)		68.1		69.5		
	精粒重 (kg/a)		74.8		74.9		
	精玄米重 (kg/a)		57.2		59.5		
	収量平年比 (%)		100		100		
玄米検査等級 (等)		2上		1下			

注1) 平年値は、前7か年中、平成29年(最豊年)、同30年(最凶年)を除く5か年の平均値を用いた。

注2) 苗は中苗紙筒、栽植密度は25.3株/m² (33cm×12cm)、1株3本植え。

注3) 本田にはN、P₂O₅、K₂O成分をそれぞれ8、9.7、6.9(kg/10a)施用した。

注4) 篩目は1.90mmを使用し、精玄米重、千粒重とも水分15.0%に補正した。

注5) 登熟歩合は比重1.06の塩水で調査した。

注6) 表中▲印は「減」または「早」を示す。